# 大阪府の地震

## 2026 年 10 月

目　次

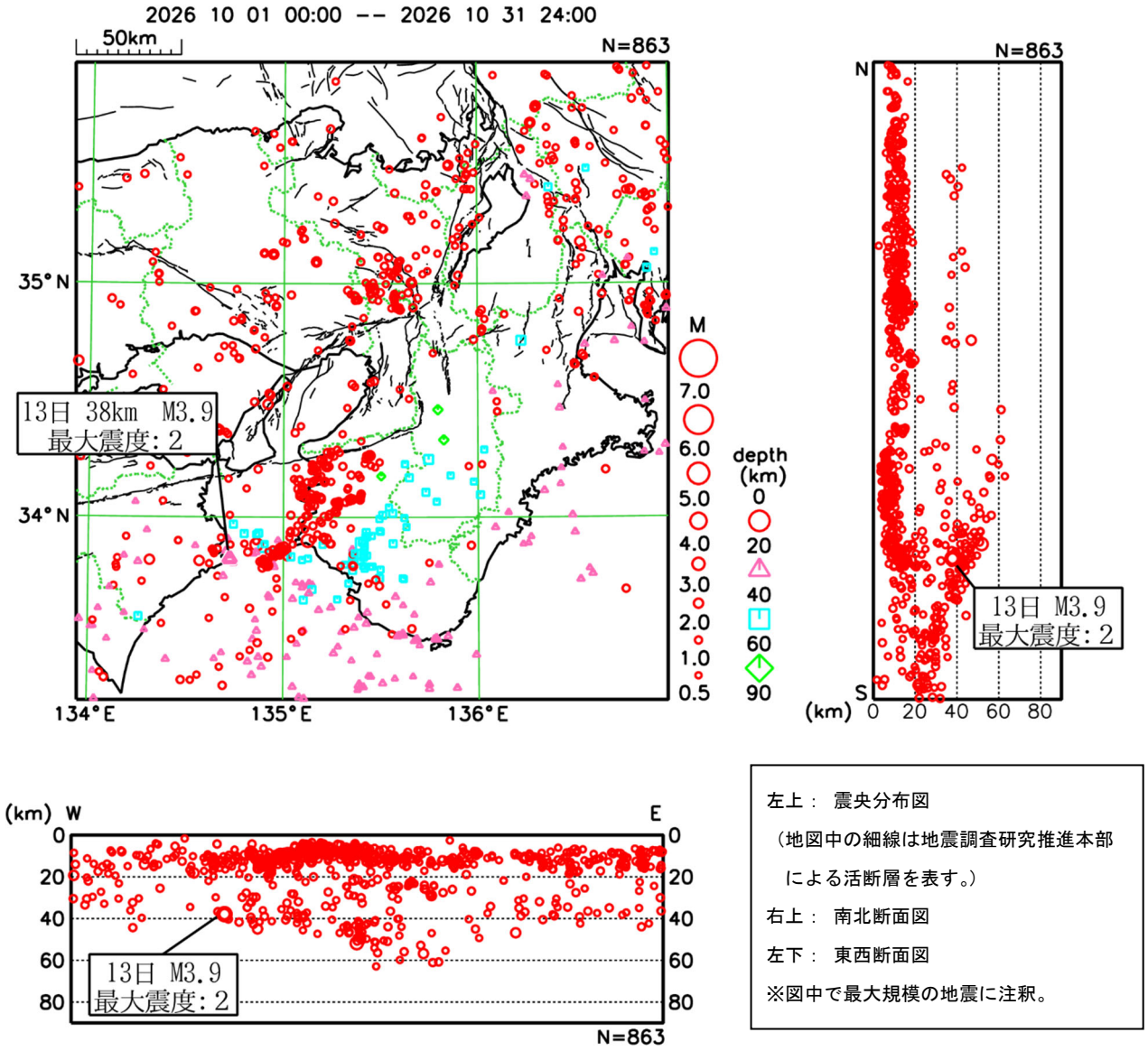
近畿地方及びその周辺地域の地震活動　……1
震央分布図と断面図
概況
近畿地方で震度１以上を観測した地震　……2
府県別震度一覧表と震央分布図
・大阪府で震度１以上を観測した地震
※10 月に大阪府で震度１以上を観測した地震はありませんでした。
地震一口メモ No.257　……3
高層ビルで大きく揺れる長周期地震動に注意

＊「大阪府の地震」は月１回発行し、近畿地方及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行います。また、「地震一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
＊この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
＊本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。
＊この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

大阪管区気象台気象防災部地震火山課

# 近畿地方及びその周辺地域の地震活動

（2026 年 10 月 1 日～31 日）




左上： 震央分布図
（地図中の細線は地震調査研究推進本部による活断層を表す。）
右上： 南北断面図
左下： 東西断面図
※図中で最大規模の地震に注釈。

## 概 況

10 月の上図の範囲内における M（マグニチュード）2.0 以上の地震は 30 回（前月 36 回）でした。このうち最も規模の大きかった地震は 13 日の徳島県南部の地震（深さ 38km、M3.9）で、この地震により、和歌山県湯浅町、徳島県小松島市・石井町で震度２を観測したほか、兵庫県、和歌山県、徳島県、香川県及び高知県で震度１を観測しました。

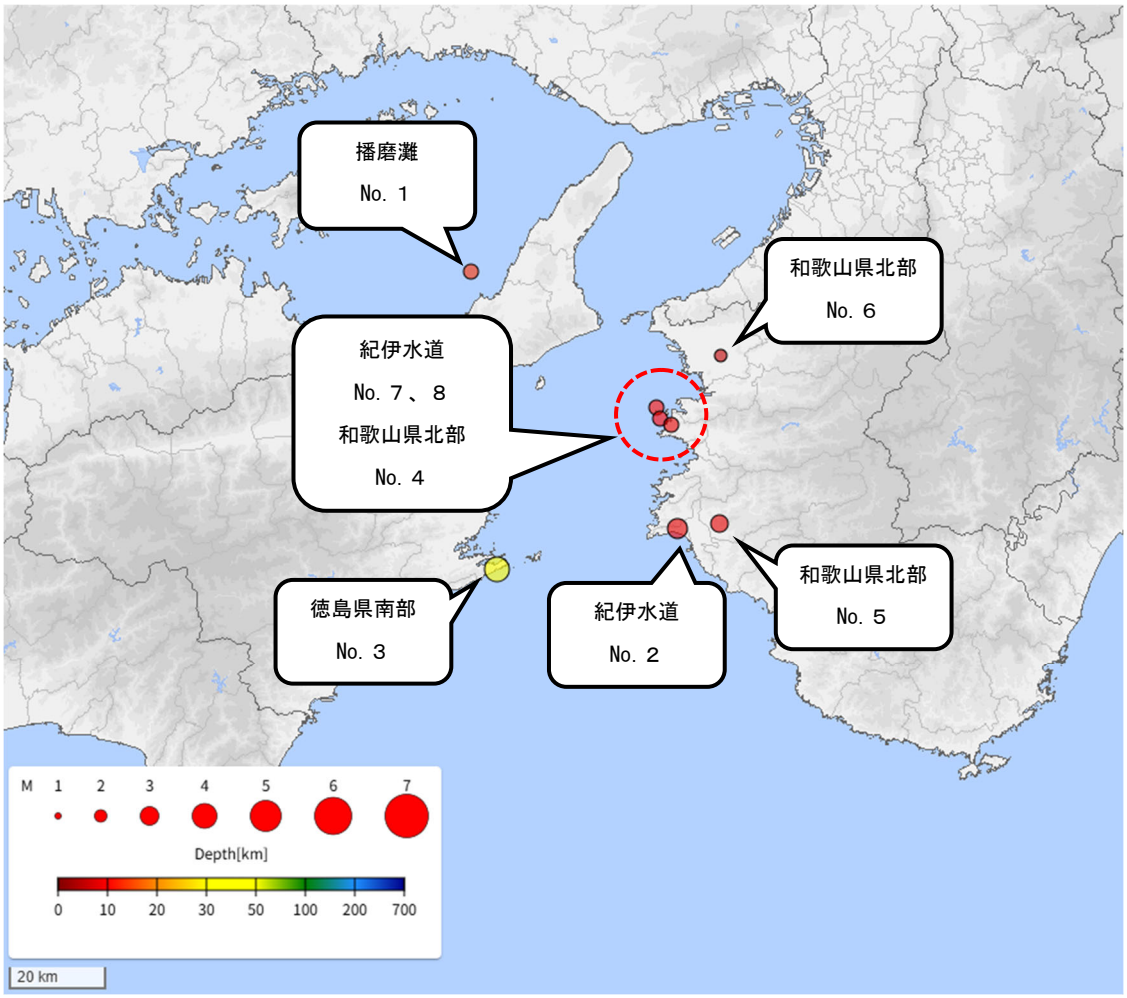
10月に大阪府で震度１以上を観測した地震はありませんでした（前月１回）。また、10月に近畿地方で震度１以上を観測した地震は８回（前月３回）でした。

# 近畿地方で震度１以上を観測した地震

府県別震度一覧表

2026年10月1日～10月31日

| No. | 発震時 | | 震央地名 | 北緯 | 東経 | 深さ | M | 最大震度 | 滋賀県 | 京都府 | 大阪府 | 兵庫県 | 奈良県 | 和歌山県 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 年月日 | 時分秒 | | 度分 | 度分 | km | | | | | | | | |
| 1 | 2026/10/5 | 05:02:40 | 播磨灘 | 34° 22.3' | 134° 40.0' | 14 | 2.4 | 1 | | | | 1 | | |
| 2 | 2026/10/10 | 03:26:47 | 紀伊水道 | 33° 53.9' | 135° 07.5' | 8 | 3.0 | 2 | | | | | | 2 |
| 3 | 2026/10/13 | 20:44:15 | 徳島県南部 | 33° 49.3' | 134° 43.5' | 38 | 3.9 | 2 | | | | 1 | | 2 |
| 4 | 2026/10/17 | 11:54:14 | 和歌山県北部 | 34° 05.3' | 135° 06.7' | 8 | 2.4 | 1 | | | | | | 1 |
| 5 | 2026/10/17 | 17:42:01 | 和歌山県北部 | 33° 54.4' | 135° 13.2' | 8 | 2.7 | 1 | | | | | | 1 |
| 6 | 2026/10/19 | 04:15:24 | 和歌山県北部 | 34° 13.0' | 135° 13.3' | 5 | 2.0 | 1 | | | | | | 1 |
| 7 | 2026/10/26 | 18:47:40 | 紀伊水道 | 34° 06.0' | 135° 05.3' | 10 | 2.5 | 1 | | | | | | 1 |
| 8 | 2026/10/29 | 00:50:02 | 紀伊水道 | 34° 07.2' | 135° 04.8' | 11 | 2.3 | 1 | | | | | | 1 |




震央分布図

（注釈の番号は上記の表の番号に該当します。）

# 高層ビルで大きく揺れる長周期地震動に注意

「長周期地震動」を聞いたことはありますか？ここでいう「周期」とは、揺れが１往復するのにかかる時間のことを指します。地震が起きると様々な周期を持つ揺れが発生しますが、南海トラフ地震のような規模の大きな地震が発生すると、周期の長いゆっくりとした大きな揺れが生じます。このような揺れを「長周期地震動」といいます。長周期地震動は、地震が発生した場所から遠く離れた場所まで伝わりやすく、高いビルの下層階に比べ、高層階の方で大きく揺れます（図１）。高いビルでは揺れが 10 分以上継続する場合もあります。大阪府には高いビルが数多く立ち並んでいるため、留意する必要があります。

長周期地震動による高層階での揺れの大きさは、震度では十分に表現できないため、４つの階級に区分した「長周期地震動階級」という別の指標で表します（図２）。観測した長周期地震動階級は、「長周期地震動に関する観測情報」でお知らせしています。

長周期地震動による被害を軽減するためには、普段からの備えが重要です。揺れで家具類が倒れないように、家具類等の固定をしましょう。万が一、倒れたり移動したりしてしまった場合に備えて、家具類や照明機器などが落ちてこない、倒れてこない、移動してこない空間（安全スペース）を確保するなど家具類の配置に気をつけましょう（図３）。大きな地震が発生した際には、安全スペースに身を寄せ、揺れがおさまるまで様子をみましょう。

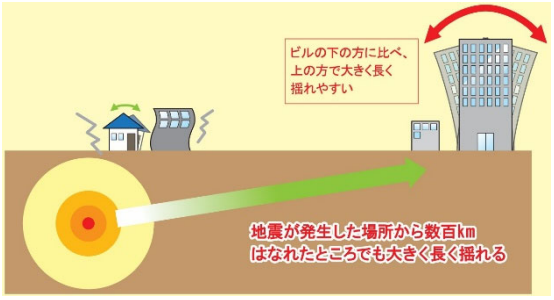



図１　長周期地震動の主な特徴

気象庁リーフレット「知ってる？長周期地震動のこと」より
一部加工して作成

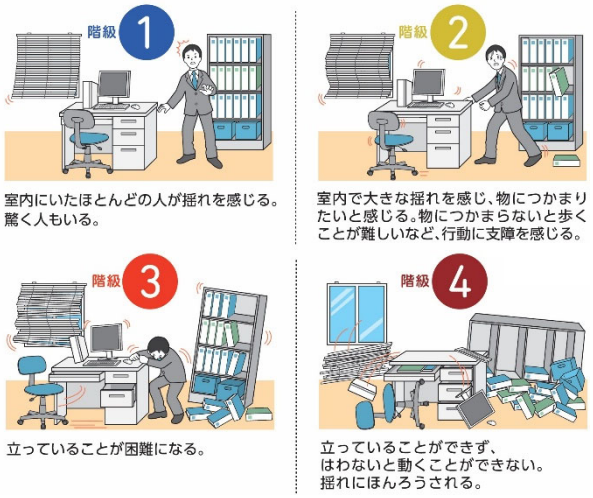



図２　長周期地震動階級

気象庁リーフレット「長周期地震動知ってる？」より
一部加工して作成

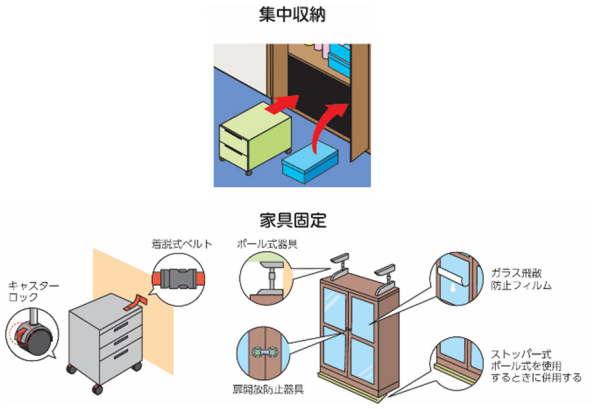



図３　日頃からの備えの例

出典：東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」
https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/learning/elib/kagutenhandbook.html
気象庁リーフレット「長周期地震動知ってる？」より一部加工して作成

○気象庁 HP「長周期地震動について」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/choshuki/index.html

○気象庁リーフレット「長周期地震動知ってる？」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/choshuki_leaflet2/choshuki_leaflet.pdf